

2012年秋、この“エック”が上演
された時、パリのシャイヨー国立劇場
が、大層気に入ってくれた。とにかく、パリ
に“エック”を持って来い、という話になった。
何と、そんなに気に入ったのか？と問えば、
この芝居には、ワレワレ（パリの人々、あるいは欧米）
の知っている日本と知らない日本と
知りたい日本とが、混在しているからだ”
という。うん、だったらもう一度再演し、
日本も巡り、パリにも行こうと、役者、キャストで
（の内）
楽屋で盛り上げた。ぶつう、こういうのは盛り上り
だけで、しほむことが多い。だがこうして、オリジナル
のキャストで再演できることになった。今の日本の演劇事情
を思うと、奇蹟的である。その奇蹟を見届け
て欲しい。「また」にせよ「はじめ」にせよ。野田秀樹